

# 第2次長久手市食育推進計画策定概要 - スキーム

## 1 国の第2次食育推進計画の目標指標別分析からの課題

- 食育への関心や朝食の欠食状況については、性別や年齢別により差が見られる。
- また、家族との朝食や夕食の摂取状況は時間や暮らし向きのゆとりも影響を与えている。
- 健康管理に取り組むことに関心のある国民が多くなっている。

## 2 県の第2次食育推進計画の中間評価からの課題

- 小学生から高校生にかけての朝食の欠食割合は低下しているが、男子大学生や30歳代男性の朝食欠食割合は高いことから、世代における食生活の改善が必要である。
- 食を楽しむゆとりを確保するためには、「仕事」と「生活」の調和を図ることが大切なことから、「ワーク・ライフ・バランス」を推進していく必要がある。

## 6 国・県・市の現状・課題を踏まえた計画見直しのための視点

- 各ライフステージに応じた、展開の場での食育活動を推進する。
- 各ライフステージによって、食に関する課題は様々であり、各ライフステージによる展開の場での食育活動が重要。

## 3 第3次食育推進基本計画の方向性(主な論点)(案)

- 今後取り組むべき課題
- ・20歳代を中心とする若い世代への食育の推進
- ・家族形態等の多様化に対応した食育の推進
- ・地域の郷土料理など食文化の継承と情報発信
- ・持続可能な社会の実現に向けた取組
- ・食育を推進する社会環境づくり

- 若年層から食生活を改善し、健康的な食生活を実践していく。
- 若年層から、健康づくりを習慣化するための食生活を実践していくことが重要。

## 4 長久手町食育推進計画における基本方針

1. 食を通じた健康の増進と豊かな心の形成
2. 食に対する感謝の念と理解
3. 子どもの食育に関わる保護者、関係者等の連携した指導と食育の実践
4. 食に関する体験活動と食育推進運動
5. 日本型食生活や地域に根ざした食文化の復興
6. 健全な食生活の実践のための情報の収集と提供

## 5 「食」に関する重点課題(案)

- 食育を推進していくためには、様々な機会での食育活動が求められているため、家庭や学校等(保育園・幼稚園)、地域、生産者・事業者など「展開の場」ごとの施策が必要である。
- 食の安心・安全面からも、さらなる「地産地食」を推進していく必要がある。
- 健康づくりを習慣化させるためにも、小さい時から「食育」にふれることのできる機会を充実していくことが必要である。

- 地域の食育活動を通じた、食の安心・安全を確保する。
- 地域の様々な資源を活用した取組を実施し、市民の食の安心・安全性の認識を高め、確保していくことが重要。

## 7 見直しの視点に基づく計画策定の作業方針

- ①アンケート調査  
ライフステージごとに重点課題を設定し、その課題を検証することのできる設問を設計
- ②ワークショップ  
市民、地域での食育に関する取組状況や今後の取組について把握
- ③計画施行体系の見直し  
方向性についてライフステージの視点を踏まえるとともに「展開の場」での取組を再調査し、新たな事業として紹介
- ④方向性の整理  
市民・地域・行政の3つの主体ごとに、それぞれの取り組みの方向性を整理
- ⑤指標・目標値  
施策での課題を解決していくために、最も有効な指標・目標をライフステージごとなどで設定